

5月28日テヘラン北方地震について

神戸大学 高田至郎

現地時間の5月28日(金)17時にテヘランから北方70km位を震源地としてマグニチュード6.1前後の地震が発生した(テヘラン大学:5.5,SSB:6.1,US:6.2)。筆者は5月30日午前5時にテヘランに到着したが、昼からの会議でも地震の発生は大きな話題となっている。6月3日に被災地を訪問する予定であるが、新聞報道などから状況を報告する。

本地震では、今のところ25人の死者と400人の負傷者であると公式に発表されているが、イラン赤新月社では死者は45人に上ると考えられている。テヘラン市内でも相当な揺れを感じて、数千人は毛布をかぶって公園などで一夜を過ごしている。市内北方の住宅では壁などに亀裂が生じた地域もある。26,000人の死者を出し、半年前に発生したバム地震では、本震の前に地震が起きていたことが、人々にかなりの恐怖を与えたようである。地震の発生した地域はテヘラン北方に伸びるAlborz山脈地帯に位置するQazvin県とMazandaran県の山岳地域であり、テヘラン市とカスピ海地域のChalus市を結ぶ細い道路を走行中のドライバーが、山からの落石に巻き込まれて命を落としており、25人のほとんどの死因となっている。しかし、現地を訪れた人の話では建物にも相当な被害がでており、建物崩壊による死者も懸念される。既に赤新月社ではテントを配布しているようである。被災地に近い変電所では停電にいたる被害が発生している。また、Qazvin県の知事・副知事他の4名は地震後ヘリコプターで被災地を視察していたが、墜落によって全員が死亡している。

テヘラン市では次の大きな地震の発生が懸念されており、100万人の死者が出るだろうと予測されている。1830年には1万人以上の死者が出る地震があったが、150年周期説もあり、今回の地震は、首都への警告であると、IRAN NEWSでは報じている。そして、“バム地震から我々は教訓を得ているのか”と結んで、遅々として進まない大都市テヘランの地震対策に警鐘を鳴らしている。 以上